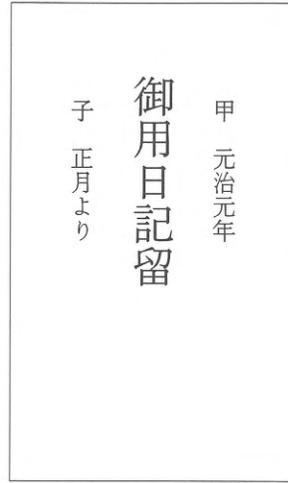


2 元治元年（一八六四） 御用日記留

（表紙）



右者此度永代御橋御懸直しに付、渡初被 仰付、難有仕合に奉存候、然る上は、御沙汰次第、何時にても早速罷出候様可仕候、依之御請書差上申処、仍如件

安政五年三月廿一日

同廿八日渡初相成申候

右 町家主吉兵衛

父 惣兵衛

家主 右吉兵衛

五人組 利兵衛

名主久右衛門煩に付、悴

久太郎

永代御橋御修復御掛り

御役人中様

差上申御受書の事

\*年月等相違致候へ共、稀成事故写置もの也\*

深川中島町家主吉兵衛

安永六酉年二月九日誕生

父

惣兵衛

年八十式才

同 九子年六月十五日誕生

母

たみ

同七十九才

差上申一札の事

一今何日五つ時前、御供揃にて、中野筋へ被為遊

御成、私共町内

還御御見通しに相成候に付、諸事前々の通相心得、目安の者并僧

侶・髪切女・瞽女・盲人等

御道筋へ差出不申、町家二階窓ノ切、別て火の元大切に相守、煙

立不申様仕、人留・人弘等の義、御差図次第可仕旨、被 仰渡奉

畏候、為其一札差上申処、仍如件

年号 月 日

四谷塩町老丁目

月行事 何兵衛

五人組 何右衛門

名主 何兵衛

何野何左衛門様

安政六未年六月

以書付御届奉申上候

四谷伝馬町

月行事 清兵衛

五人組 忠 八

同所塩町

月行事 吉右衛門

五人組 儀左衛門

四谷塩町老丁目

月行事 安右衛門

五人組 丈兵衛

御番所様

(別紙絵図面なし)

市谷御役屋鋪

御用人衆中様

但赤坂御役屋鋪其外御使番へ相届候事

尤何の何の守様御用人衆中様と宛名仕候事

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目家主丈兵衛奉申上候、私店五兵衛と申、当寅廿四

才に相成候者、当月四日母てる捨置、不斗罷出、其俣立婦不申、

心当所々相尋候へ共、一向行<sup>(方)</sup>え相知不申候間、何卒以

一四谷塩町老丁目月行事安右衛門奉申上候、四谷鎮守天王於 社前に、明十八日朝五つ時より湯立神楽執行仕候に付、煙立可申候間、依之此段御届け奉申上候、尤雨天日送りの積<sup>(つもり)</sup>に御座候、以上

安政六未年正月十七日

御慈悲、欠落御帳附被成下置候様、奉願上候、尤何方よりも出入内証断等無御座候間、家財の儀は、同人母へ被成下置候様、奉願上候、以上

安政七<sup>(一)</sup>寅年六月十七日

四谷塩町老丁目家主

欠落御帳付願人 丈兵衛

五人組 珍平

同 安右衛門

同所同 町店請人 五兵衛

右の通吟味仕候処、相違無御座候、以上

名主 茂八郎

南御月番

御番所様

前書御帳附願出候に付、私共一同へ取調候処、書面の通相違無御座候、以上

右 家主 丈兵衛

五人組 安右衛門

同 珍平

名主 茂八郎殿

同 孫右衛門殿

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目、丈兵衛店欠落五兵衛母てる奉申上候、私悴五兵衛と申、当<sup>(一)</sup>寅廿四才に相成候者、平日家業未熟にて、酒の上悪敷、夜遊等致し、無益に金銭遣捨、数度異見差加候へ共、相用不申、其上当月四日家出致し、行え相知不申候に付、当月十七日欠落御帳付奉願上候へは、御聞濟相成、難有仕合に奉存候、然る処、五兵衛義、前書奉申上候通り、身持不行跡にて、末々難見届ものに付、私始め、親類一同、向後久離仕度奉存候間、且手前に差置候五兵衛弟亀吉へは、以来通路仕致<sup>間</sup>敷旨、私より申聞候間、何卒以御慈悲、久離御帳附被成下置候様、奉願上候、書面の外親類無御座候、以上

安政七<sup>(一)</sup>寅年七月廿日

四谷塩町老丁目丈兵衛店五兵衛母

久離御帳付願人 てる

家主 丈兵衛

五人組 珍平

同 安右衛門

同所同 町家持

店請人 五兵衛

麴町四丁目

家主 吉之助

外親類 一同

右之通相違無御座候、以上

名主 茂八郎

南御月番

御番所様

乍恐以書付奉申上候

四谷塩町老丁目

家持小左衛門勢州住宅に付、店支配人

質・兩替渡世 房三郎

申四十才

乍恐以書付御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目吉右衛門店源太郎奉申上候、私義羅呉服渡世仕候

処、当七月朔日晝七つ時頃、目覚見候処、表入口より致置候処、

戸明け有之、盜賊忍入候様子に付、驚家内取調候処、見世に差置

候左の品々、紛失仕候、右は全く盜賊忍入盜取候義と奉存候間、

此段御訴奉申上候、以上

安政二卯年七月七日

四谷塩町老丁目吉右衛門店

訴人 源太郎

家主 吉右衛門

五人組 駒藏

名主 茂八郎

御番所様

(左の品々記載なし)

右房三郎奉申上候、去未年九月中、保字小判買取候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段去未年九月中、本店藤堂和泉守領分、<sup>(高懸)</sup>勢州飯野郡中万村百姓

小左衛門方より、保字小判有之候は、百兩程為差登候様、申越

に付、同月中、日失念、瀬戸物町同渡世にて、幸七地借幸八方よ

り左の

一保字小判百兩

此代 金百四拾三兩也

右直段にて買取置候処、勢州表より不用の趣、申越候に付、其俣

今以所持罷在候、然処、今般右小判の義に付、御吟味有之、私義

今日被召出、奉請 御調奉恐入候、右

御尋に付、奉申上候通聊相違不申上候、以上

万延元年五月廿八日

四谷塩町老丁目

家持小左衛門勢州住宅に付

店支配人 房三郎

五人組 安右衛門

高橋吉右衛門様御掛り

文久三亥年八月中、下口書

十二月廿六日呼出し

廿九日阿部越前守様御白洲にて、御定通用に歩増

致買取、右は武州久良岐郡横浜表に逗留罷在候英

吉利テイセンへ密売致候を、兼て存知なから、一

時の利欲に泥み、密売致候段、不埒に付、取扱代

金・売徳共取上、手鎖被仰付、文久四子年正月二

日、年寄同心八丁堀桜井八十右衛門殿方へ罷越、

内々相頼候処、何れ当番与力も立会候義に付、何

れ首尾能懸替候は、禮物受取可申旨被申聞、松

の内手鎖改御免、九日左の書面差上候へは、かけ

替に相成申候、

正月九日・十四日・十九日・廿四日・廿九日手鎖

御免に相成申候

北御月番

御番所様

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町壱丁目家持小左衛門勢州住宅に付、店支配人房三郎奉申  
上候、嘉兵衛一件に付、保字小判百両上納可仕旨、被仰渡候処、

今日持参不仕候間、何卒以

御慈悲、来正月十八日迄、御日延奉願上候、当日無相違上納仕候

間、此段御聞濟奉願上候、以上

文久三亥年十二月廿九日

四谷塩町壱丁目

家持小左衛門勢州住宅に付

店支配人 房三郎

五人組 安右衛門

同 丈兵衛

御番所様

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町壱丁目家主安右衛門奉申上候、私共五人組家持小左衛門

勢州住宅に付、店支配人房三郎義、嘉兵衛一件に付、去亥年十二

月廿九日手鎖にて、私共へ御預け被 仰付置候処、同人義種物に

て腰痛、乍恐難渋至極仕罷在候間、何卒以

御慈悲、御見分の上、手鎖御掛替被成下置候様、偏に奉願上候、

以上

四谷塩町壱丁目

文久四子年正月九日・十四日・ 家主 安右衛門

十八日保字小判百両上納仕候、 五人組 徳兵衛

十九日・廿四日・廿九日手鎖御 名主茂八郎頼に付、代

免に相成申候

仙吉

阿部越前守様北御用番

御番所様

成、御調の上、今日私被 召出、右始末御調奉受驚奉恐入候、右御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

文久四子年二月五日

巳之助一件

四谷塩町老丁目珍平店

乍恐以書付奉願上候

伊之助

一四谷塩町老丁目珍平店鞘師伊之助奉申上候、去亥年十二月中、麴町拾老丁目栄次郎地借湯屋吉蔵方へ、入湯に罷越、衣類紛失致候

中田仲五郎様御懸り

家主

珍平

義有之哉の旨、御尋に御座候

四月九日下口書

五人組

徳兵衛

此段去亥年十二月七日夕七つ時頃、前書湯屋吉蔵方へ、入湯に罷越、揚場より無之戸棚に脱入置候私所持の左の

御番所様

一木綿藍(微カ)徳摩広袖綿入

但裏花色木綿

老つ

一同草色綿入男半(袴纏)天

老つ

但裏同断

老つ

一同紺浅黄藍縞袴男襦袢

老つ

但裏同断、裾木綿鼠色

老つ

一同真田紐

老つ

メ四品

老つ

右品湯より揚見候処、相見え不申候に付、湯番吉蔵へ申聞、俱々相尋候へ共、何分相知不申候間、其段同月十七日、御月番

越前守様御番所へ御訴申上置候、然る処、今般盜賊御召捕に相

一四谷塩町老丁目藤七地借、老番組人宿喜兵衛奉申上候、去亥年十月中、衣類紛失致し候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段去亥年九月廿九日、兼て知人市作と申もの、私方(たより)へ手便参り、寄子致呉候様申聞候に付、手元に差置候処、同月三日無断家出致し、相帰不申候に付、跡取調見候処、与助所持の

一木綿紺茶見甚男袴

老つ

但裏花色木綿

老つ

一同紺袴背板

老つ

一浅黄木綿单法皮(はっぴ)

老つ

但背に大の字有之

一同木綿股引

沓つ

メ四品

右品紛失仕候に付、所々相尋候へ共、何分相知れ不申、左候へは、  
同人盗取、逃去り候義と、奉存候、然る処、今般盗賊当御組御廻  
り衆へ被召捕、御吟味の上、今日私被召出、奉請御調、驚奉恐入  
候、右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

文久四子年二月初日

四谷塩町沓丁目藤七地借

沓番組人宿 喜兵衛

同人寄子

被盗人 与 助

家主 藤 七

五人組 徳兵衛

御懸り

仁杉八右衛門様

二月五日 口書

同十六日落着、当入市蔵(マ)義は、入墨・重敵御仕置相濟候上、  
人足寄場へ差遣候旨被仰渡、喜兵衛義は、当入市蔵(マ)を寄子  
に可致と目見中、与助所持の品盗取、逃去候は、早速御  
訴可申上処、打捨置候段、不埒に付、急度叱置候旨被仰渡

候

南 佐々木信濃守様

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一 四谷塩町沓丁目儀左衛門店、湯屋善吉奉申上候、去亥年十一月申、

私方にて、入湯人衣類紛失致候義有之哉の旨、御尋に御座候、

此段亥年十一月六日暮六つ時頃、同所同町同店勝右衛門義、入

湯に罷越、揚場戸棚に脱入置候同人所持の左の

去亥年十一月六日

一 木綿紺茶堅縞男綿入 沓つ

但裏花色木綿

一同藍(微力)懲塵男袴 沓つ

但裏同断

一 草色木綿羽織 沓つ

但裏茶海気

一 浅黄木綿襦袢 沓つ

但袖むきみ紋り

メ 四品

右品湯より揚見候処、相見え不申旨、申聞候間、俱々取調候へ  
共、相知不申、全混雑の砌、被盜取候義と奉存候、跡に左の

一木綿紺白格子縞継の袴(袴カ) 袴ツ  
但(マ)、

一同紺白堅縞筒袖袴(袴カ) 袴ツ

一同柿色手綱染三尺帯 袴ツ

一晒下帯 袴ツ

ノ四品

右品残有之候間、品々持参、同月十四日当御番所様へ御訴申上置候、然る処、今般盜賊安五郎義、火附盜賊御改大久保筑後守様御組、船越鉢太郎様へ、同十一月廿日御召捕に相成、私義市谷片町自身番屋へ被 相呼、罷出候節、心得違仕、出未共御訴不仕候段、奉恐入候、然る処、今日当

御番所様へ被 召出、右始末御調奉又驚、奉恐入候、右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

文久四子年二月七日

四谷塩町老丁目儀左衛門店

善 吉

家主 儀左衛門

五人組 安 平

御番所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目丈兵衛地借弥六奉申上候、私母こう存生中、井伊(直憲・彦根藩主)掃部頭様御家来左の名前の御方、去五ヶ年已前、万延元年七月

中より、私方へ追々御出被成、御勤向御差支の趣を以、金子用達呉候様、達て御頼に付、相違も有之間敷と存、期月証文取置、御用達申候処、期日過去候ても、御返金無之、数度御催促仕候へ共、品能日延而已仕、更に取敢不申、此節取詰及御懸合候へは、勝手次第可致杯と不当被申聞、乍恐難渋至極仕候間、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以

御慈悲、相手名前の方々被 召出、元利共早々濟方被成下置候様御利解被成下置度奉願上候、以上

文久四子年二月廿二日

四谷塩町老丁目丈兵衛地借

訴訟人 弥 六

家主 丈兵衛

万延元年七月証文

井伊掃部頭様御家来

一金八両也

多和田久平殿病死に付、同人粹

当正月迄四拾四ヶ月

相手 多和田鉦平殿

此利銀貳百拾壹匁貳分

同 藤浦鍊次郎殿

元利ノ金拾壹兩貳分と銀壹匁貳分

同 向谷建三殿

内金壹兩壹分銀五匁追々受取

差引ノ金拾兩貳朱と銀三匁七分滯

同年九月証文

同御家来

一金三兩也

相手 安藤友治殿

当正月迄四拾貳ヶ月

同 同 弘治殿

此利銀七拾五匁六分

当正月迄三拾五ヶ月

相手 秋場銅之助殿\*

元利ノ金四兩壹分と銀六分

此利銀百五匁

内金壹兩壹分三朱追々受取

元利ノ金六兩三分也

差引ノ金貳兩三朱と銀六分滞

内金貳分貳朱と壹匁五分追々受取

同年十二月証文

同御家来

差引ノ金六兩と銀六匁滞

一金六兩貳分

相手 植松長藏殿

同年五月証文

同御家来

当正月迄三拾九ヶ月

同 同 吉田義三郎殿

一金壹兩貳分也

相手 篠崎銅六郎殿

此利銀百五拾貳匁壹分

当正月迄三拾四ヶ月

同 同 田淵權次郎殿

元利ノ金九兩と銀貳匁壹分滞

此利銀三拾匁六分

同年同月証文

同御家来

\*内濟子六月廿三日御下け相願候\*

一金貳兩也

相手 森下忠兵衛殿

当正月迄三拾九ヶ月

同 同 中田要三郎殿

文久二戌年四月証文

同御家来

此利銀四拾六匁八分

一金貳兩也

相手 関尾左門殿\*

元利ノ金貳兩三分と銀壹匁八分滞

当正月迄廿四ヶ月

同 同 西脇四郎平殿\*

此利銀廿七匁六分

(挟み紙・表) 「内濟日去子六月廿三日御礼御訴訟申上候」

元利ノ金貳兩壹分三朱と銀壹匁三分滞

(挟み紙・裏) 「休日六日 十一日 十三日 十五、六、七 十八日」

合ノ金三拾五兩貳朱と銀拾六匁壹分五厘 全滞

但二月十七日差出差入候処、御詮義所へ相廻り、後

藤斧次郎様御懸にて、書面に相成候処、俄に御奉

行様御本家相続に付、追て御沙汰可有之間、書面

\*丑三月廿七日御下け相願申候\*

御年番所にて、御渡に相成申候

翌十八日御差紙に付、罷出候処、御月番南へ御頼

に相成候間、願の筋は、南へ可罷出旨被仰渡候

猶亦廿一日より、御月番御聞被成、同廿二日訴訟

北御月番阿部越前守様

御奉行所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一四谷塩町耆丁目丈兵衛地借弥六奉申上候、去々戊年正月申中より、

井伊掃部頭様御家来左の名前の方々、私方へ御出被成、御勤向御

差支の趣を以、金子用達具候様、達て御頼に付、相違も有之間敷

と存、期日証文取置、御用達申候処、期日過去候ても、御返金無

之、数度御催促仕候へ共、品能日延而已仕、更に埒明不申、此節

取詰及御懸合候へは、勝手次第可致杯と、不当被申聞、乍恐難渋

至極仕候間、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以

御慈悲、相手名前の方々被 召出、元利共早々済方相成候様 御

利解被成下置度、偏に奉願上候、以上

廿二日訴訟

文久四年二月廿七日

四谷塩町耆丁目丈兵衛地借

訴訟人 弥 六

家 主 丈兵衛

文久二戊年年正月証文

一金三兩也

当正月迄廿六ヶ月

此利ノ銀四拾六匁七分

元利ノ金三兩三分と銀七匁八分滞

同年四月証文

一金四兩三分也

当正月迄廿三ヶ月

此利銀六拾五匁七分

元利ノ金五兩三分と銀五匁七分

式口ノ金九兩貳分と銀七匁五分滞

\*子六月廿三日内済御下ヶ相願候\*

同年二月証文

一金壹兩也

当正月迄廿五ヶ月

此利銀十五匁

元利ノ金壹兩壹分滞

同年三月証文

一金拾五兩也

井伊掃部頭様御家来

相 手 本間六郎左衛門殿

同 星 野 忠 平 殿

相 手 右 御 同 人

同 同

同御家来

相 手 西 脇 邦 太 郎 殿

同 本 間 六 郎 左 衛 門 殿

\* 同御家来

同御家来

相 手 荻 原 勘 解 由 殿

当正月迄廿四ヶ月

此利銀百八拾匁

元利ノ金拾八兩也滞

同年四月証文

同御家来

一金拾貳兩也

相手 萩原与三次殿

当正月迄廿四ヶ月

此利銀百四拾四匁

元利ノ金拾四兩壹分貳朱と銀壹匁五分滞

合ノ金四拾三兩貳朱と銀九匁 全滞

御奉行所様

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目勘六店喜兵衛煩に付、代民弥奉申上候、徳藏と申もの、地受人に相立候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段前書徳藏義は、兼て知人に御座候処、去る四ヶ年已前文久元酉年八月中、地受人に相立、南伝馬町老丁目与兵衛差配地面、借受差置候処、翌戌年二月中類焼致し、同月中私方へ引取申候、然る処、同三月中欠落致、行え相知不申候処、同人義今般当御組廻り來へ被召捕、当時御吟味の趣被仰聞、驚奉恐入候、何卒以  
御慈悲、御吟味相濟候は、徳藏身分私へ御引渡被成下置候様、

奉願上候、右

御尋に付、奉申上候通、相違無御座候、以上

文久四年二月十八日

四谷塩町老丁目勘六地借

喜兵衛煩に付、代

民 弥

家主 勘 六

五人組 徳兵衛

御懸り

福田礼助様

\*徳藏義は、当月中病死候に付、其方より呼出し死骸取片付可被仰付処、左候へは其方共難義にも相成候間、上にて取片付被仰付、以來懸り合無之、一件落着致申候旨被 仰渡候事\*

大久保<sup>(忠信)</sup>筑後守様火附盜賊御改

御役所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一本郷菊坂田町紺屋渡世家主安五郎義、去る亥年十月中、欠落仕候に付、其御訴奉申上候、跡相統人同人悴熊次郎義、幼年に付、後見実祖父安兵衛奉申上候、左の相手勝五郎義、嘉永二酉年中より、安政三辰年迄、私方手間に召抱置、追々引負相嵩罷在候処、

同人義世話人有之、他家へ養子口有之旨を以、受人方より永の暇相願度旨、申来候に付、其節得と相談の上、引負金証文に取極、内金受取、左の証文の通り取極御座候処、此節養子先離縁相成、当時四谷塩町老丁目庄<sup>(吉カ)</sup>八地借にて、勝五郎事要次郎と改名致し、紺屋渡世致居候に付、私方追々不如意に相成、今般及懸合候処、不当の義而已申之候に付、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲、左の相手要次郎義、卯之助俱々被 召出、御吟味の上、無利足引負金滞分、不残早々濟方被仰付被成下置候様、奉願上候、以上

本郷菊坂田町家主安五郎欠落に付、

跡相続人熊次郎幼年に付、祖父後見

元治元年三月五日訴訟

訴訟人

安兵衛

十四日公事相始 五人組

忠兵衛

十五日公事

仁杉八右衛門様御懸り

安政三辰年九月証文

四谷塩町老丁目庄<sup>(吉カ)</sup>八地借

一金拾八両也

相手

要次郎

無利足

神田横大工町五人組持店

同

宇之助

御奉行所様

乍恐以返答書奉申上候

一四谷塩町老丁目庄吉地借要次郎奉申上候、本郷菊坂田町家主安五郎欠落に付、跡相続人熊次郎後見安兵衛より、外老人へ相掛引負金滞出入、当月五日当 御奉行所様へ奉出訴、今日双方可罷出旨の

御裏書頂戴相附、拜見奉恐入候、依之左に御答奉申上候

願人申立候廉、逸々相違の義にて、素私義紺屋手間職仕罷在候処、去る拾七ヶ年已前、嘉永元年申年二月中、願人安兵衛義職業手廻り兼候に付、手伝具候様達て相頼候に付、老ヶ年金拾老両の割合にて約速<sup>(東カ)</sup>致し、同月中より手間に被相雇、月雇の義に付、請状等も不仕罷在、翌酉年正月中外方にて、日々銀式匁五分つゝの割合にて、相雇度旨申之候間、外方へ罷越候間、安兵衛へ申聞候処、外並には給金可差出旨申聞候に付、同月中より手間、日々銀式匁五分つゝ割にて、月雇に取極罷在候処、去る九ヶ年已前安政三辰年九月中、相応成養子口有之候間、神田横大工町五人組持店卯之助世話を以、下谷茅町<sup>(マ)</sup>金屋三五郎と申もの方へ、縁付申候、其砌金五両程前借有之、当金式両差入、残金の儀は、月々金壹分つゝ相渡可申旨懸合仕候処、去る六ヶ年已前安政六未年四月中、離縁相成、右卯之助方へ被引取罷在候処、同年三月中、当店へ引越申候、両度金式分対談金相渡、然る処、去亥十二月中、願人安兵衛義私方へ罷越、引負金拾九両有之候間、右返済可致、左も無之候は、官方御貸附金式拾五両有之候間、右を私方にて、引受濟方可致、若不行届候は、出訴可致杯と懸合有之、驚入申候、素よ

り引負等証文に取結候覚、曾て無御座、全月雇のものへ前借拾九両余の大金借遣し候いわれ無之、右様願人方にて、自佩に証文取拵、右を以今般被及出訴候ては、乍恐難捨置、甚難決仕候、向後願人方にて、如何成義仕出し候義(裁力)、難計候間、何卒以

御慈悲、前書の始末被為訊 聞召、前書給金前借殘金相渡候間、今般出訴の始末、敵敷御吟味被成下置候様、偏に奉願上候、以上

元治元子年三月十五日

四谷塩町老丁目庄吉地借

返答人 要次郎

南 佐々木信濃守様

御奉行所様

差上申対談書の事

一私共出入、当時御吟味中に御座候処、懸合の上、左の通り対談仕候

御願高

一金拾九両也

内金拾五両也

殘金四両也

右の通取極仕候間、金子調達申、来月朔日出の御日延奉願上候、以上

元治元子年四月十一日

本郷菊坂田町家主安右衛門欠落

同人倅熊次郎幼年に付、後見

訴訟人 安兵衛

五人組 吉五郎

四谷塩町老丁目庄吉地借

相手 要次郎

家主 庄吉

五人組 徳兵衛

神田横大工町金兵衛店

相手 卯之助

家主 金兵衛

五人組 吉兵衛

御番所様

(前欠力)無是非当三月五日、御訴訟奉申上候へは、同月十四日双方可罷出旨

の

御裏書頂相附、公事合当日相流、翌十五日双方罷出、相手方より返

答書奉差上、御吟味に相成、追々御日延奉願上、厚御利解の趣奉承

伏、依之御願高金拾九両の処、当金十五両受取、殘金四両は願人方

にて、不足勘弁仕候上は、以来双方聊無申分、熟談内済仕度候間、

御吟味御下け被成下置候様、奉願上候へは、願の通り被 仰付、偏

に

御威光と難有仕合に奉存候、依之為後証、濟口証文奉差上候処、仍  
如件

元治元子年七月廿五日

本郷菊坂田町家主安右衛門欠落に付、跡

相続人倅熊次郎幼年に付、後見

願人 安兵衛

五人組 吉五郎

四谷塩町老丁目庄吉地借要次郎頼に付、代

相手 与七

五人組 庄三郎

同 庄吉

名主孫右衛門頼に付、代

半兵衛

菊坂田町名主長左衛門代

彦兵衛

神田横大工町金兵衛店

相手 卯之助(マ)

家主 金兵衛

五人組 吉兵衛

名主宗之助頼に付、代

長次郎

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目清吉店古着渡世幸次郎奉申上候、去亥八月中、瀧  
吉と申ものより、(并纏)半天老つ買取候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段前書瀧吉義は、兼て知人に御座候処、去亥八月上旬頃、日  
失念、私方へ罷越、同人所持品(マ)の品申之、買取具候様申聞候間、

相違も有之間敷と存、左の

一紺木綿大紋付(并纏)半天

老つ

代錢七百文

此売徳百文

右品証人無之、無判にて買取、翌日私見世先にて、名・住所不存  
往還人へ、前書売徳取之、売払申候、然る処、瀧吉義、今般当  
御役所様へ被 召捕、御吟味の上、今日私被召出、右品不正の由  
被 仰聞、驚奉恐入候、何卒此上 御慈悲の 御沙汰奉願上候、  
右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年四月八日

四谷塩町老丁目清吉店

幸次郎

家主 清吉

五人組 庄吉

奥村様御懸り

火附盗賊御改

御役所様

乍恐以書付奉願上候

一 四谷塩町老丁目家主勝右衛門煩に付、五人組藤七奉申上候、信州伊奈郡駒場村元百姓茂三郎義は、私父金太郎同村の者にて、兼て知人に御座候処、当月四日私方へ罷越候に付、同居為致置候処、同人義、御駕籠訴仕候に付、私義被召出、御調受奉恐入候、何卒以

御慈悲、茂三郎義、私へ御引渡被成下置候様奉願上候、以上

元治元子年四月十二日

四谷塩町老丁目家主勝右衛門煩に付、代

五人組 藤 七  
五人組 甚右衛門

但右茂三郎義、御老中御月番牧野備前守様へ、御駕籠訴候

に付、家主急御差紙に付、罷出候処、加藤九郎兵衛様御

掛りにて、始末御調有之、始末書差上候へは、御白洲に

て御引渡に相成申候

北 都築駿河守様

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一 四谷塩町老丁目家主清吉奉申上候、喜助と申者へ、去る四ヶ年已前酉年七月中より私店に差置候義有之故の旨、御尋に御座候

此段前書喜助義、去る四ヶ年已前文久元酉年七月中より、麴町九丁目仁兵衛店太兵衛店請人に取置、私店に差置候処、去亥年八月八日私義は、武州荏原郡浜川村親類共方より、用向有之罷越候処、名主方より、喜助へ用向有之可召連旨、被申越候に付、悴善八義、喜助を同居可致と罷越申聞候用談聞誤、及口論、悴善八へ疵付、喜助義も少々疵受候に付、阿部越前守様御勤役中、同御番所へ御訴奉申上候へは、御検使被下置、口書奉差上候処、翌九日同於 御白洲、喜助義は、溜御預け被 仰付、悴善八義は、私へ御預け相成、御吟味中同所坂町孝三郎店喜三郎と申者、取扱に立入、喜助身分に付、向後如何様の義出来候共、聊迷惑等相掛け申間敷旨、達て相詫候に付、同人へ対し勘弁致し、九月五日御吟味御下け奉願上、同御腰懸にて、喜助身分喜三郎方へ引渡申候、然る処、今般喜助義、当 御役所様へ御召捕に相成、右始末奉受 御調、驚奉恐入候、右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年四月十八日

四谷塩町老丁目

家主 清 吉

五人組 徳兵衛

横井様御掛り

火附盗賊御改

御役所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一 四谷塩町老丁目藤七地借喜兵衛奉申上候、去亥年三月中、私受人に相立、武州豊島郡高田村百姓にて、春米渡世藤八方へ、梅蔵と申もの奉公に差遣候処、去亥年十二月十五日雜司谷鬼子母神門前家主金太郎方へ、餅米梅蔵に為持遣し候処、右金太郎申聞候は、過米の義直様持参可仕旨申之候間、立帰り主人へ其段申聞、持参可仕処、同人義、外方へ罷越候間、外召仕のものに為持遣候処、刻限延引相成候段、致し立腹候間、主人方より詫入候処、同日夕七つ時頃、梅蔵主用にて、前書金太郎表通り仕候処、同人義、理不尽に梅蔵を及打擲候に付、往還人相制具候間、右始末主人へ申聞候処、得意先の義にも有之候間、主人へ対し、勘弁致具候様被申聞候間、任其意に罷在候、然る処、当月九日右金太郎方へ、梅蔵義白米持参仕候処、金太郎并同人弟政吉兩人にて、理不尽に及打擲候間、往還人相制具候を、主人方にて聞付、召仕作蔵と申も

の罷越、右金太郎へ種々及掛合候へ共、不当申居、依之私義は、請人の義に付、藤八方より只今早々可罷越旨、使を以被申聞候間、驚入早速罷越候処、梅蔵義打擲被及、殊之外難洪罷在候間、薬用手当仕、追々掛合仕候処、金太郎義、不当の挨拶難得其意、甚心外難洪仕候間、難捨置、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲、相手金太郎外老人被召出、梅蔵へ対し、以後右様の理不尽不仕様、敢敷御利解被成下置度奉願上候、以上

元治元子年四月廿八日

四谷塩町老丁目藤七地借

訴訟人 喜兵衛

家主 藤 七

雜司ヶ谷鬼子母神門前家主

相手 吉五郎

同人弟

同 政 吉

御奉行所様

右の通訴状相認、相手方へ及掛合候処、従先方扱人立入、相詫候に付、内済行届申候間、此段書記置もの也

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家持質渡世小左衛門勢州住宅に付、店支配人房三郎頼に付、代治兵衛奉申上候、当四月中鉦次郎と申者より、衣類質物に預り置候義有之哉、御尋に御座候

此段前書鉦次郎義は、同所坂町統・御役名不知、当時石川八十五郎様用役相勤罷在、兼て知人に御座候処、当四月廿一日私方へ罷越、左の品々持参、質物預り呉候様、申聞候に付、相違も有之間敷と存

一郡内紺萌黄大格子縞夜着  
但裏浅黄絹 卷つ

一御召縮緬紺鼠紋織格子縞女小袖  
但明裏紅裾廻し鼠縮緬 卷つ\*、\*

一縮緬風中形引返し女小袖  
但明裏紅 卷つ\*、\*

一琉球袖風地黒立縞男小袖  
但裏花色絹 卷つ\*、\*

一鼠金巾男小袖  
但裏花色絹 卷つ\*、\*

一黒龍門(散)男小袖  
但裏花色絹紋所<sup>(三)</sup>ヶ所有之 卷つ\*、\*

一黒宝生袖裾模様重付女袴  
但下白絹 卷つ

表紅裾廻し引返し

紋所丸の内三つ柏

一鼠絹縮裾模様振袖重付女小袖 卷つ\*、\*

但下白絹 紋所松皮の内かたはみ

明裏紅裾引返し

一黒縮緬割羽織 卷つ

但明裏縮緬緋板<sup>(三)</sup>中形

一茶地博多紺式本独<sup>(三)</sup>古女帯 卷筋\*、\*

但<sup>(三)</sup>

一五色博多立縞女帯 卷筋\*、\*

一茶地厚板横筋惣形腹合女帯 卷筋\*、\*

但片皮黒小柳

一黒地古純子惣形小巾女帯 卷筋<sup>(三)</sup>\*、\*

一厚板赤地惣形女帯\*、\*

一茶地古純子麻の葉惣形腹合女帯 卷筋\*、\*

但片皮鼠絹縮染分中形

一糸織紺浅黄竖縞切 卷つ

但式丈式尺程

一紺縞子古切 式つ

一御召縮緬紺茶竖縞古切 式つ

メ拾八品

質代金拾三両也

右代金相渡、証人無之、無判にて質物に預り置申候処、猶亦当

五月朔日前同様申聞、左の

一 鼠金巾裕半合羽

巻つ

但裏茶紋綸子

メ巻つ

右品持参、先月廿一日預ヶ置候品の内共にて、金三両式分増金致具候様申聞候に付、両度に金拾六両式分貸遣申候、然る処、今般当 御廻り先にて、辰五郎義御召捕に相成、御調の上、今日私被 召出、右品不正の由被 仰聞、驚奉恐入候、何卒以御慈悲、此段御聞濟奉願上候、以上

元治元子年五月四日

四谷塩町老丁目家持小左衛門勢州住宅に付、

店支配人房三郎頼に付、代

治兵衛

五人組 徳兵衛

湯島天神下富蔵へ、引合に罷出申候

火附盜賊御改

大久保筑後守様御組

橋本喜三郎様

乍恐以書付奉申上候

一 四谷塩町老丁目鉄五郎地借、鎗師喜兵衛奉申上候、当四月中勝五郎と申ものに被相頼、衣類質物に入候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段前書勝五郎義は、兼て知人に御座候処、当四月十二日私方へ罷越、左の品持参、外より被相頼候由申聞、質入致具候様申聞候に付、相違も有之間敷と存、同所伝馬町老丁目家主質屋市兵衛方へ持参  
一 木綿金巾鉄御納戸引解  
メ質代金巻分也  
巻つ

前書直段に質入致遣し、代金当人へ相渡、礼物等は受不申候、然る処、今般盜賊当 御組御廻りの衆へ被召捕、御吟味の上、今日私被召出、右品不正の由被 仰聞、驚奉恐入候、何卒以御慈悲、此段御聞濟奉願上候

右御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年五月十一日

四谷塩町老丁目鉄五郎地借喜兵衛頼に付、代

喜兵衛

家主 鉄五郎

五人組 徳兵衛

御懸り中村八郎左衛門様

口書

当月廿六日落着

当人勝五郎義、入墨の上、重敲御仕置被仰付候

喜兵衛義は、三貫文過料被仰付候

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家持質渡世小左衛門勢州住宅に付、店支配人房三郎奉申上候、当四月中辰五郎と申者より、衣類質物に預り置候義、有之哉の旨、御尋御座候

此段前書辰五郎義は、兼て知人に御座候処、当四月廿五日私方へ罷越、外より被相頼候由申之、質物に預り呉候様申聞候に付、相違も有之間敷と存

一御召縮緬浮織紺鼠格子縞女小袖 沓つ

但明裏紅

一縮緬鼠中形引返し女小袖 沓つ

但明裏紅

一琉球袖黒茶堅縞男小袖 沓つ

但裏花色絹

一栗梅金巾男小袖 沓つ

但裏同断

一黒羽二重男小袖 沓つ

但裏同断、紋所三つ星三ヶ所有之

一鼠縮緬裾模様振袖重付女小袖 沓つ

但下白羽二重、紋所松皮の内かたばみ

明裏紅、裾引返し

一茶地博多紺式本独（紺）子女帯 沓筋

一五色博多堅縞女帯 沓筋

一厚板赤地惣形女帯 沓筋

一茶地厚板麻の葉惣形鯨帯 沓筋

メ拾品

質代金五両貳分

右品々前書代金にて、証人無之、無判にて質物に預り置申候、然る処、今般辰五郎義、当

御役所様へ御召捕に相成、御吟味の上、今日私被 召出、奉受

御吟味、右品不正の由被仰聞、驚奉恐入候、依之右品持参、上

納仕候間、何卒此上 御慈悲の御沙汰、被成下置候様奉願上候

右御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元年五月廿八日

四谷塩町老丁目家持小左衛門勢州住宅に付、

店支配人房三郎頼に付、代

治兵衛

徳兵衛

火附盗賊御改

御役所様

右は奥村様御掛りにて御座候処、主人方にて、訴相成候品計畫上呉候様、元飯田町万太と申質屋に有之候処、辰五郎義、素々万太方に勤罷在候ものに付、不便に存、歎願書奉差上候故、御懸奥村様より内意有之、紛失御訴相成候品計畫上、直段等も格外引下げ、書上候義に御座候

六月十八日 口書

七月三日 落着

当人辰五郎義は、入墨の上、重敲御仕置被仰付、房三郎義は、過料五貫文被仰付候

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家主大工職珍平、内藤新宿又兵衛店銀次郎方同居伝蔵、兩人奉申上候、当五月中六兵衛と申ものに、金子貸遣候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段当五月十日私共外七人、赤坂表伝馬町老丁目茂兵衛地借、蒲焼渡世安五郎後家かめ方に、酒喰罷在候を、品川步行新宿水茶屋渡世小兵衛召仕、六兵衛と申もの及聞罷越、主人方引負金出来、甚難渋の趣、前書銀次郎俱々にて、相歎候に付、懇意の間柄気の毒に存、一同にて金七両貳分出銀仕、主人方引負金為償候義に御座候、然る処、今般私共被 召出、右始末御調受、驚奉恐入候

右御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元年五月廿九日

四谷塩町老丁目

家主 珍 平

五人組 徳兵衛

内藤新宿又兵衛店銀次郎方同居

伝 蔵

右家主 又兵衛

火附盜賊御改

大久保筑後守様御組

赤井鎌太郎様

麻布湖雲寺門前自身番へ罷越候処、前書書面差上候へは、御調の上、当人六兵衛当時引渡先相知不申候に付、向後呼出無之候は、見切と可相心得、若亦不行届に候は、今一応及沙汰候間、其砌可罷出旨、被申渡候義に御座候

乍恐以書付奉歎願候

一品川步行新宿彦兵衛店小兵衛、内藤新宿又兵衛店銀次郎外九人奉申上候、今般伝次郎・勝蔵兩人のもの、六兵衛と申ものより頼を受、主人方為償と、一同のもの共より金子取立候段達御聴に、既に御差送りに可相成様にも承り、私共一同被 召呼、

前文の始末御糺御座候段、驚奉恐入候、全く同人共役意を以取立候義には無之、自分晰合にて銀次郎を以、一同へ談合候義に御座候、然る処、六兵衛義は、兼て知人の義故、得心の上、金七両式分主人方へ為償、右様示談仕候義にて、外金子の義は、同人共諸入用等も相懸候義故、為其手当と、差遣し候義にて、全礼金等には決て無御座候、何卒格別の以御慈悲、兩人共御勘弁被成下置候様、偏に奉願上候、左候へは、私共如何計か難有仕合奉存候、此段御聞濟被成下置候様、奉願上候、以上

元治元子年五月廿九日

品川歩行新宿

彦兵衛店小兵衛頼に付、代

て  
る

右家主煩に付、代兼

五人組  
直  
八

内藤新宿又兵衛店

銀次郎

同人方同居  
伝兵衛

家主  
又兵衛

赤坂新町老丁目伊兵衛地借

甚兵衛

右家主煩に付、代兼

五人組  
文次郎

同所同町三丁目  
家主  
秀次郎

同人方同居  
伝  
蔵

五人組  
清  
助

同所同町清五郎地借

久助  
清  
助

右家主煩に付、代兼

五人組  
清  
助

赤坂田町芝田町四丁目代地安五郎地借

三郎兵衛

右家主煩に付、代

五人組  
元次郎

溜地端芝御霊屋御掃除屋敷代地金八地借

兵  
蔵

家主  
金  
八

麴町山元町徳太郎地借久兵衛粹

栄  
助

家主  
徳太郎

山下町藤八地借

重三郎

右家主煩に付、代兼

四谷塩町老丁目

五人組 平 吉

家主 珍 平

五人組 徳兵衛

火附盜賊御改

大久保筑後守様御組

赤井鎌太郎様

乍恐以書付御礼御訴訟奉申上候

一 四谷塩町老丁目丈兵衛地借弥六奉申上候、井伊掃部頭様御家来本  
間六郎左衛門殿外四人へ相掛貸金滞、当二月廿二日御訴訟奉申上  
候へは、訴状御達被成下置、難有仕合に奉存候、然る処、相手の  
内右御家来西脇邦太郎殿・本間六郎左衛門殿へ相掛、滞高金老兩  
老分有之候処、懸合の上、元利滞金不残受取、訴状御達中内済仕  
候間、何卒以

元治元子年六月廿三日

四谷塩町老丁目丈兵衛地借

弥 六

家主 丈兵衛

五人組 徳兵衛

名主孫右衛門代

忠兵衛

御番所様

乍恐以書付御礼御訴訟奉申上候

一 四谷塩町老丁目丈兵衛地借弥六奉申上候、井伊掃部頭様御家来多  
和田久平殿病死に付、同人悴多和田鉉平殿外拾三人へ相掛、貸金  
滞出入、当

御奉行様へ御訴訟奉申上候へは、訴状御達被成下置、難有仕合に  
奉存候、然る処、相手の内右御家来関尾左門殿・西脇四郎平殿へ  
相掛、元利滞金式兩老分三朱と銀老匁三分有之候処、掛合の上、  
金老兩老分三朱と銀老匁三分請取、残金老兩は新規証文仕、訴状  
御達中熟談内済仕、偏

元治元子年六月廿三日

右名前

前同断

御番所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目庄吉店岩五郎後家かね奉申上候、私夫岩五郎存生  
中、左の相手の者、去戌年十二月中、私方へ罷越、金子用達呉候  
様申聞候間、相違も有之間敷と存、期日証文取置、貸遣候処、期  
日過去候ても、返済不仕候に付、度々及催促候へ共、品能申延而  
已にて、埒明不申、此節取詰及懸合候処、女と侮り、不当被申聞、  
乍恐難渋至極仕候間、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以  
御慈悲、左の相手名前の者被召出、元利共早々済方被 成下置候  
様、奉願上候、以上

元治元子年六月廿三日

四谷塩町老丁目庄吉店岩五郎後家

訴訟人 か ね  
家主 庄 吉  
相手 久右衛門  
一金拾五両也

文久二戌年十二月証文

同所同町三丁目音右衛門店

当五月迄十八ヶ月 麴町六丁目喜兵衛店

此利銀百六拾式匁

同 弥 七

元利メ金拾七両式分銀拾式匁滯

御奉行所様

如斯訴出候間、双方家主・五人組・名主立会、来廿八日迄の内可相  
済、若不埒明候は、翌廿九日五つ時、召連可罷出もの也

子六月廿三日

(町奉行・郡筑後守兼藤)  
駿河番所

四谷塩町老丁目庄吉店岩五郎後家

願人 か ね

家主 庄 吉

同所同町三丁目音右衛門店

相手 久右衛門

麴町六丁目喜兵衛店

同 弥 七

同

右双方御役人

(前欠カ) (二カ)  
無是非当六月廿二日御訴訟奉申上候へは、訴状御達被成下置、雖有  
仕合に奉存候、然る処、今以済方の義、一向埒明不申、乍恐難渋至  
極仕候間、何卒以

御慈悲、相手左の名前の方々被召出、滯金早々済方被 仰付被成下  
置候様、奉願上候、以上

元治元子年六月廿四日

四谷塩町老丁目丈兵衛地借

訴訟人 弥 六  
家主 丈兵衛

井伊掃部頭様御家来多和田久平殿病死に付、

同人悴

多和田鉉平殿

相手 外 拾老人

同御家来

本間六郎左衛門殿

同 外 三人

御奉行所様

乍恐以書付御訴奉申上候

一四谷塩町老丁目儀左衛門店湯屋平助、麴町拾貳丁目吉兵衛店金次郎右兩人奉申上候、私共の内金次郎娘こうと申もの、当六月廿日暮六つ時頃、前書湯屋平助方へ入湯に罷越、揚場棚へ脱入置候こ  
う所持の左の

一木綿紺藍中形小<sup>(敷カ)</sup>載単物

老つ

メ

右品紛失仕候に付、取調見候処、跡に左の

一木綿紺藍万筋男単物

老つ

一鬱金木綿三尺帯

老つ

一晒木綿下帯

老つ

一木綿紺茶格子縞財布

老つ

内当百錢拾貳枚

真鍮錢五拾貳文

小錢拾文

メ老貫貳百五拾貳文

メ四品

右品残有之候間、右品持参、此段御訴奉申上候、以上

元治元子年六月廿四日

四谷塩町老丁目儀左衛門店湯屋

訴人 平 助

\*御訴奉申上候へは、紛失の物より残品多分

家主 儀左衛門

有之候間、三日見合可訴出旨、被仰渡有\*

名主 孫左衛門

\*近辺問合候へ共、心当のもの無之候間、

麴町拾貳丁目吉兵衛店

右品持参、此段御訴奉申上候\*

訴人 金次郎

\*右の通六月廿七日御訴奉申上候へは、

同入娘 吉兵衛

猶亦三日見合可訴出旨、被仰渡候に付\*

被盜人 こ う

\*所々心当承合候へ共、心当のもの無之候に付、

名主 与兵衛

其段七月朔日御訴申上候へは、心当有

之候は、可訴出旨被仰渡候\*

北御月番御奉行都筑駿河守様

御番所様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目儀左衛門店湯屋平助奉申上候、当六月廿日暮六つ

時頃、見世揚り場棚へ、脱入有之候入湯人の木綿藍絞り単物袴つ、紛失致し候義有之故の旨

御尋に付、召仕・湯番のものは不及申、其外精々取調仕候へ共、前書月日の頃に不限、入湯人は勿論、私方にて右様の品紛失致候義、是迄毛頭無御座候、右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年六月廿七日

四谷塩町老丁目儀左衛門店

湯屋 平 助

右家主類に付、代

五人組 徳兵衛

同 伊太郎

火附盗賊御改大久保筑後守様御組

清水金八郎様

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目庄吉店日雇稼源次郎奉申上候、私方に同居差置候兼吉義、今般御廻り先にて、御召捕に相成、御調受候処、申口相分、当人私へ御引渡し被成下置、難有慥に奉引取候、向後御用の節は、何時にても早速召連可罷出候、為後日差上申引取一札、(符之)一札仍如件

元治元子年七月二日

四谷塩町老丁目庄吉店

源次郎

右家主類に付、代兼

五人組 徳兵衛

火附盗賊御改大久保筑後守様御組

宮坂太左衛門様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目儀左衛門店湯屋平助奉申上候、当子六月中、見世にて入湯人の衣類紛失致候哉の旨、御尋に御座候

此段当六月廿日夕七つ時過、私義見世湯番仕罷在候処、麴町拾貳丁目吉兵衛店金次郎娘こうと申女子、入湯に罷越、見世表の方より無之格子窓台へ、脱載置候同人所持の

一木綿紺藍中形中(ツ)載女単物 老つ

右品同人義、湯より上り相見え不申旨、申聞候間、俱々相尋候へ共、紛失致候間、全表往来より引出し、盗取候義と奉存候、然る処、右始末御訴も不仕、内分に致置候処、今般御調受奉恐入候、右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年七月六日

四谷塩町老丁目儀左衛門店

湯屋 平 助

家主 儀左衛門

五人組 徳兵衛

候様奉願上候、右

御尋に付、奉申上候通、相違無御座候、以上

元治元年七月十九日

四谷塩町老丁目庄次郎店仙五郎方同居

火附盜賊御改組

小作義左衛門様

七月廿一日南御番所へ被召出、蜂屋新五郎様御掛りにて、始末書差

上候へは、追て御沙汰の旨、被 仰渡候

八月二日猶亦被召出、下口書被仰付候事

火附盜賊御改

御役所様

江町喜太郎様御掛りにて、追て御沙汰の旨被仰渡候、

猶御慈悲願上呉候様被仰聞候

七月廿九日手鎖御預けに相成

八月朔日呼上げ相成申候

同二日五半時被召出、当人仙太郎義は、敵の御仕置被

仰付、引渡に相成申候

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目庄次郎店、建具職仙五郎方同居定吉奉申上候、私

悴仙太郎と申もの、手元に差置候始末、御尋に御座候

此段私義は、素麴町拾貳丁目利八店に罷在、建具職仕居候処、

去る拾三ヶ年巳前、嘉永五子年正月中、私女房りん義、病死致

候に付、店相仕舞、前書仙五郎方へ同居致、手元に差置候処、

今般仙太郎義当

御役所様へ御召捕に相成、当時御吟味中の趣、承知驚奉恐入候、

同人義、何様の悪事仕候哉、子細不奉存候へ共、不便歎ヶ敷次

第に奉存候間、恐をも不顧、奉歎願候、何卒以

御慈悲、御吟味相濟候は、仙太郎身分、私へ御引渡被成下置

差上申対談書の事

一私共出入当時御吟味中に御座候処、懸合の上、対談左の通り

御願高

一金拾七両貳分と銀拾貳匁

内金九両也

当金一時に可受取筈

金八両也 来三月迄新規証文可仕筈

残金貳分と拾貳匁 願人方にて不足勘弁可仕筈

右の通対談相極候間、金子調達中来る十八日迄、御日延御猶予被成  
下置候様奉願上候、以上

元治元子年七月廿九日

四谷塩町老丁目庄吉店岩五郎後家

訴訟人 か ね

家主 庄 吉

五人組 徳兵衛

同所同町三丁目音右衛門店

相手 久右衛門

家主 音右衛門

五人組 利 助

麴町六丁目伊兵衛店

同 弥 七

家主 伊兵衛

五人組 甚右衛門

御番所様

服部孫九郎様御懸りにて、廿八日罷出候処、久右衛門代

三之助罷出、不都の義申立候に付、当人自身久右衛門可

罷出、病氣に候は、駕籠にて可罷出旨被申聞候

麴町弥七義、刻限延引致し、御吟味間に合兼候に付、弥

七義も自身、名主与兵衛自身可罷出旨被仰渡、翌日対談  
相成申候

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目儀左衛門店湯屋平助奉申上候、当六月中、入湯人  
衣類紛失致候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段当月廿日夕七つ時頃、私義湯番仕罷在候処、麴町拾貳丁目  
吉兵衛店金次郎娘こうと申女子入湯罷越、揚場棚に脱入置候同  
人所持の

一木綿紺藍中載単物 老つ

右品湯より上り、相見不申旨申聞候に付、俱々相尋候へ共、相  
見不申、全混雜の紛、被盜取候義と奉存候、尤其砌残等無御座、  
御訴不仕候処、今般火附盜賊御改、大久保筑後守御組宮坂太左  
衛門様へ召捕に相成、同月廿二日、四谷伝馬町三丁目自身番屋  
へ被相呼、其砌心得違仕、御訴も不奉申上候段、町役人俱々奉  
恐入候、然る処、当

御番所様へ奉受御調、奉恐入候、何卒以

御慈悲、此段 御聞濟奉願上候

右御尋に付、奉申上候通、相違無御座候、以上

元治元子年七月廿日

四谷塩町老丁目儀左衛門店

平 助

家主 儀左衛門

五人組 徳兵衛

蜂屋新五郎様御掛りにて、追て御沙汰

八月二日被召出、下口書に相成申候

南御番所様

乍恐以書付奉願上候

四谷塩町老丁目

上総屋 喜兵衛

浅草森田町

上州屋 平三郎

四谷伝馬町老丁目

溝口屋 松兵衛

右三人奉願上候、私共年来糸渡世仕候処、追々不如意に付、難渋仕、殊に家内多、必至と困窮相重り候間、恐をも不願奉歎願候、私共渡世柄の義、生糸の義、当 御屋敷様御国産の品に仕度<sup>\*立\*</sup>、渡世仕度奉存候、尤老箇に付、目方拾八貫目メに仕、老ヶ年千箇つゝ売買仕候は、暮方安穩に可仕と奉存候、右生糸の義、御国産私共へ御免被仰付候は、生糸直段高下に不拘、老ヶ年金五千兩つゝ、為御冥加

と、奉御上納度奉存候、然る上は、仕入向昼夜に不限心掛申度、依之往来の為安堵と、当 御屋敷様

御会符・船印・御印鑑奉頂戴度奉願上度、尤商先迄御大切の御印頂戴、奉願上候義に付、前書三人の内老人は、御家来の御趣意、御聞濟相成候上は、宰領に附添、聊不都合の義、無御座候様可仕候間、何卒格別の以

御慈悲、前書の趣 御聞濟被為遊被下置候は、私共家内一統安堵、

暮方相成、冥加至極難有仕合に奉存候間、偏

御憐愍の御沙汰奉願上候、以上

元治元年九月十二日

四谷塩町老丁目

上総屋 喜兵衛

浅草森田町

上州屋 平三郎

四谷伝馬町老丁目

溝口屋 松兵衛

御役人衆中様

(齊裕・徳島藩主)  
松平阿波守様

\*右は町内願の義には無之候へ共、書面認遣し候処、向後右の類有之候は、振合に被存認置申候、尤素々の義は、横浜表へ貿易に遣し候に付、道中入用・雜費等相掛候間、右防として前書阿州様御国産の品に仕立、渡世仕度との願に御座候\*

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目清次郎地借彦兵衛奉申上候、私悴鎌次郎と申、当子廿五才に相成候者、平日家業未熟にて、酒上悪敷、夜遊等致し無益に金銭遣捨(脱アル之)、数度差加候へ共、相用不申、其上度々家出致し、近辺知人方立廻り、罷在住所も相定不申、追々不行跡相募り、末々難見届者に付、向後追出、久離仕度奉存候間、何卒以御慈悲、久離御帳附被成下置候様、奉願上候、尤親類(マ)身身等老人も無御座候間、\*此\*門段御聞濟奉願上候、以上

元治元子年九月十四日

四谷塩町老丁目清次郎地借

久離御帳附願人

彦兵衛

家主

清次郎

五人組

安右衛門

前書の通吟味仕候処、相違無御座候、以上

名主

源右衛門

外御用に付、代

忠兵衛

南 松平(康直)石見守様御月番

御番所様

前書の通、久離御帳附奉願上候に付、私共一同立会、取調候処、相違無御座候、以上

元治元子年九月十四日

右願人 彦兵衛  
家主 清次郎  
五人組 安右衛門  
同 珍平  
同 丈兵衛  
名主 孫右衛門殿  
同 茂八郎殿

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目清次郎地借彦兵衛奉申上候、私悴鎌次郎と申、当子廿五才に相成候もの、平日家業未熟にて、酒の上悪敷、夜遊等致し、無益に金銭\*遣捨\*数度に異見差加候へ共、相用不申、其上度々家出致し、近辺知人方立廻り罷在り、住所も相定不申、追々不行跡相募り、末々難見届ものに付、向後追出、久離仕度奉存候間、何卒以御慈悲、久離御帳附被成下置候様、奉願上候へは、再応御尋御座候へ共、委細前書に奉申上候通、相違無御座候間、此段 御聞濟被成下置候様、奉願上候、以上

元治元子年九月十四日

四谷塩町老丁目清次郎地借

久離御帳付願人 彦兵衛

家主 清次郎

五人組 安右衛門

名主孫右衛門外御用に付、代

忠兵衛

南御月番松平石見守様

御番所様

\*右願書御訴所へ差上候へは、表に差控可罷在旨被仰渡、尚亦御吟味所へ被 召出、蜂屋新五郎様御掛りにて、再応御調有之、口書差上候へは、尚亦表に差控可罷在旨被仰渡候処、又候御呼込に相成、御当番所におゐて願の通り、帳面記置旨被仰渡候間、御訴所罷越、願の通り久離御帳面へ、御記置被下置候趣、御届け申上候  
御非番池田播磨守様御番所へ右同断願書差上候へは、御月番は御尋有之願の通、久離御帳面へ記置被下置候趣、奉申上候へは、此方も同様の旨被仰渡候

但表地借の義に付、玄関へ金壹分、代忠兵衛とのへ金貳朱遣し候趣、申請候間、依之記置もの也

御月番高島氏に御座候\*

覚

一金貳拾五両也

麻布長州上り屋敷、取壊一件に付、え組持場

此銀壹貫五百目

にて、多分入用相掛、難立行義、五番組中へ

難波願出候に付、為助成と差遣し候高

右を

え組人足高七拾壹人を除

外八組人足高

五百七拾七人に割

壹人に付

銀貳匁六分つゝ

一(割印) 銀三百〇四匁貳分

人足百拾七人

や組

一(割印) 此金五両壹朱と錢四拾九文

一(割印) 同貳百拾八匁四分

同八拾四人

ま組

一(割印) 此金三両貳分壹朱と錢百壹文

一(割印) 同百拾七匁

同四拾五人

け組

一(割印) 此金壹兩三分三朱と錢八拾壹文

一(割印) 同九拾三匁六分

同三拾六人

ふ組

一(割印) 此金壹兩貳分四百五文

一(割印) 同九拾壹匁

同三拾五人

こ組

一(割印) 此金壹兩貳分と錢百拾壹文

一(割印) 同百七拾四匁貳分

同六拾七人

し組

一(割印) 此金貳兩三分貳朱と錢百八拾八文

一 (割印) 同貳百六拾貳匁六分 同百老人 ゑ組

此金四兩壹分貳朱と錢拾老文

一 貳貫四百文

廻り人足六人賃せん<sup>(錢)</sup>

一 (割印) 同貳百三拾九匁貳分 同九拾貳人 ぐ組

此金三兩三分三朱と錢三百三拾老文

一 六百元

賃せん

ノ

右の通談判行届候間、来月二日四谷坂町遠州屋吉五郎方へ出銀持參

一 六百元

同十四日右同断、猶亦模様替に付、急廻状持廻り、雇上げ人足賃錢貳人分

御出勤可被下候、右申上度如斯に御座候、以上

一 五百文

八月十五日夜麻布長州屋敷取壊に付、人足改<sup>(改)</sup>め御宰領内藤銀藏との方へ罷越候人足貳人賃せん

元治元子年九月

く組世話番

同廿五日五番組人足取調書上に付、半紙并筆墨代とも

四谷塩町老丁目

一 壹貫七百文

月行事

徳兵衛

同所坂町

一 六百元

同 孝 助

同十月二日取集、え組

世話町麻布宮村新道

行事 (マ) (コ) (ハ)

十一月 (マ) (コ) 日相渡申候

一金貳分老朱と

四百三拾八文

此錢四貫貳百

五十八文

同廿九日番町柏木にて老番組、式番組、三・五・六番組、八・九・拾番組、本所深川南・中・北組共、都合拾老組、寄合人足賃銀并弁当代、其外取調書上候に付、席料・半紙并支度代共入用の割

\*元治元子年五番組名主大世話番にて  
当八月町内龍吐水月番にて掛り御座候\*

一 壹貫三百四拾文

一 貳貫四百文

八月七日夜四つ時より、麻布長州上り屋敷  
道具取片付一件に付、五番組中、急廻状持

一 六百元

九月三日人足賃銀并に弁当代、再応書上に付、半紙・筆墨代  
同十三日五番組中赤坂吉田屋にて寄合、急

廻状持廻り、雇上げ人足賃式人分

但同十五日寄合廻状も

一六百文

九月十九日麻布龍土町より長州一件に付、

入用多分に相掛り候に付、五番組中へ難渋

願出候に付、赤坂吉田屋寄合廻状持廻り人

足賃

一三四拾文

九月十五日赤坂吉田屋にて、寄合の御勘定

違分

半紙(美濃)の紙代

一百拾六文

ノ錢拾五貫四百五拾八文

右を人足六百四拾八人に割

老人分錢廿三文つゝ

百拾七人分

一(割印) 錢貳貫八百三文

八拾四人

一(割印) 同貳貫五拾貳文

四拾五人

一(割印) 同壹貫七拾五文

三拾六人

一(割印) 同八百六拾文

三拾五人

一(割印) 同八百三拾七文

七拾老人

一(割印) 同壹貫七百壹文

人足六拾七人

一(割印) 錢壹貫六百〇五文

百老人

一(割印) 同貳貫四百拾九文

九拾貳人

一(割印) 同貳貫貳百〇四文

ノ

外金三分と銀五匁

十月朔日火消寄合年番受取渡之并え組助

右を九組に割

老組に付、金壹朱と貳百廿貳文つゝ

\*但十月朔日取集勘定仕候處、書殘もの也\*

\*北御月番

池田播磨守様御白洲にて被仰渡候\*

文久三亥年二月被為成

御上洛、相濟候に付、市中町人共へ金六万三千兩被下

当百錢兩に六貫七百拾六文相場

五万兩分

え組

し組

ゑ組

く組

三拾三万五千八百三拾三貫三百三拾貳文  
銅四文錢兩に六貫五百三拾貳文相場

卷万三千兩分

八万四千九百三拾三貫三百三拾貳文

右ノ錢四拾貳万七百六拾六貫六百六拾四文

竈数

拾三万三千九百四拾壹軒に割

壹軒に付、錢三貫百三拾九文七分七厘余

去春

御上洛被為 濟候御祝儀として、市中町人共へ金六万三千兩被下置候

此錢四拾貳万〇七百六拾六貫六百六拾四文

右を市中惣竈数

拾三万三千九百四拾壹軒に割

壹軒に付、錢三貫百三拾九文宛

右御割渡被成下置候間、一同難有奉頂戴候、依之銘々請印仕置奉差上候処、仍て如件

元治元子年十月廿一日

四谷塩町壹丁目

表	家主	清次郎 <small>印</small>
同	同地借	元昌 <small>印</small>
同	同	恒右衛門 <small>印</small>

彦兵衛印  
同  
表  
同  
金次郎印  
同  
八右衛門印  
家持小左衛門勢州住宅に付、店支配人

房三郎印  
同  
清次郎地借  
太郎兵衛印

\*此もの義三月朔日同所伝馬  
町三丁目庄右衛門店治兵衛方  
へ引渡申候\*

同  
家主  
安右衛門印  
同  
同店  
徳兵衛印

\*此もの義三月四日麴町六丁目  
卯兵衛店へ引越申候\*

同  
同  
松仙印  
同  
同  
同

此もの義九月廿五日麴町拾壹  
丁目銀藏店亀吉方へ同居仕候

同  
家主  
珍平印  
同  
同地借  
佐太郎印

同  
同  
清吉印  
同  
同  
清藏印  
此もの義五月十五日桜田和泉

町吉藏店へ引越申候

同  
同  
辰五郎印  
同  
同  
松之助印  
同  
同  
兼吉印  
同  
同地借  
市太郎印

表	裏	同	同		表	裏	表	同	同		表	同	同	裏	表	裏	同	同	同	同	同	同
家主	同 地借	同	①	同 店	同 地借	同 地借	家 主	同	①	同 惣次郎後家	同	同 地借	同 店	同	同 地借	家 主	同	同	同	同 店	同	同
安 平 ①	弥 三 郎 ①	清 助 ①	て つ		清 助 ①	利 根 次 郎 ①	伊 太 郎 ①	与 惣 次 郎 ①	た つ		鎌 吉 ①	喜 兵 衛 ①	勝 蔵 ①	伊 三 郎 ①	弥 六 ①	丈 兵 衛 ①	鉄 五 郎 ①	佐 吉 ①	伊 之 助 ①	卯 之 助 ①	弥 助 ①	

此もの義八月中同所坂町孝三  
郎店喜三郎方へ引渡申候

	同	同		同	表	同	同	同	同	同	表	同	表	裏	表	裏	同	同	裏	同	裏	裏
同 店常吉後家	同	同 地借		同 店	家 主	同	同	同	同	同 地借	家 主	家 持	同 地借	家 主	同	同 店	家 主	同	同	同	同 地借	
	藤 兵 衛 ①	忠 蔵 ①		平 助 ①	甚 右 衛 門 ①	嘉 七 ①	藤 兵 衛 ①	仙 五 郎 ①	政 吉 ①	定 吉 ①	庄 次 郎 ①	五 兵 衛 ①	清 助 ①	五 郎 兵 衛 ①	善 吉 ①	勝 右 衛 門 ①	儀 左 衛 門 ①	治 平 ①	勘 次 郎 ①	惣 次 郎 ①	弥 三 郎 ①	



表	同	同	同	同	同	同	裏	同	同	同	同	裏	同	表	裏	表	同	同	同	同
家主	同	同 地借	家主	同	同	同	同	同	同 印	同 常吉後家	同	同	同	同 地借	家主	五人組持店	同	同 印	同 印	同
兵藏印	金五郎印	喜兵衛印	勘六印	鉦次郎印	定助印	兼吉印	熊次郎印	長次郎印	かね		金太郎印	銀藏印	角藏印	長兵衛印	芳藏印	庄三郎印	要次郎印	佐吉印	かね	富藏印

ノ竈数百廿老軒

表店六拾三軒  
裏店五拾八軒

右は私共町内入念取調、去亥九月人別書上げ後、引越又は同居に罷越候分は、町内より書上、引越来候分は、元町より書上げ、掛合方行届候間、竈数調洩等無御座候、以上

四谷塩町老丁目

元治元年三月十五日書上げ

月行事 珍平  
五人組 丈兵衛

同	同	同	同	同	同	表	裏	表	裏	同 理兵衛後家
同	同 印	同	同	同	同 印	家主	同 地借	家主	同	同
喜兵衛印	吉五郎印	弥右衛門印	市郎右衛門印	とく	鉄五郎印	ゑいマ印	七印	く	にマ印	

同年十月廿一日被下候間、認置もの也

但老軒に付、三貫百三拾九文 内 当百 貳貫五百文

四文銅六百三拾九文

拾五番組名主茂八郎支配

名主孫右衛門 支配  
同 茂八郎

四谷忍町

四谷伝馬町老丁目

一表裏竈数百六拾老軒

月行事

万五郎

一表裏竈数九拾六軒

月行事

伝 吉

同所同町新老丁目

一同 三百四拾九軒

同所伊賀町

甚五郎

一同 九拾貳軒

同

徳兵衛

一同 貳百三拾老軒

同所御簞笥町

伊三郎

一同 百四拾三軒

同

平次郎

一同 百八拾貳軒

同所坂町

勝 蔵

一同 百五拾五軒

同

半兵衛

一同 貳拾軒

同 内藤宿六軒町

儀左衛門

一同 百貳拾老軒

同

珍 平

一同 四拾貳軒

同 四谷新堀江町

半兵衛

一裏表竈数百拾貳軒

同

伊兵衛

一同 一竈数 拾軒

同所了学寺門前<sup>(寛九)</sup>

仙 吉

一同 百八拾七軒

同

万五郎

一同 老軒

同所大木戸際

喜右衛門

一錢貳千八百四拾五貫四百六文

通七ヶ町分

九ヶ町

水番人

内 当百錢 貳千貳百六拾五貫文

銅四文錢五百八拾貫四百六文

同 当百錢 貳千貳百六拾五貫文

一錢三千百參拾四貫三百四拾貳文 塩崎持分  
内 当百錢 貳千四百九拾貫文

銅四文錢七百三拾九貫百四拾貳文

老軒に付、三貫百三拾九文つゝ

但当百錢 貳貫五百文 宛

銅四文錢六百三拾九文

右町名主茂八郎変死跡、当時組合持に候へ共、当分の内名主孫右衛門御用取扱申候

拾五番組名主孫右衛門支配

四谷仲町 月行事 惣兵衛

一表裏竈數四拾八軒

内 当百錢 百五拾貫貳百文

銅四文錢三拾五貫五百四拾八文

但老軒に付

三貫百三拾九文 内 当百錢 貳貫五百文

銅四文錢六百貳拾九文

三廉

銅四文錢六百三拾貫〇五百文

内 当百錢 四千八百三拾五貫貳百文

銅四文錢千貳百九拾五貫三百文

右を于十月廿一日銘々受印取置相渡候間、調置もの也

去春被為濟

御上洛候御祝儀として、市中町人共へ金六万三千兩被下置、右を惣竈數に割、老軒に付、錢三貫百三拾九文つゝ

右御割渡被下置候処、去九月人別書上調後、帰郷又は欠落、住所不知分書上げ、現在竈へ町内分左の通り

一当錢八百七拾九文

表裏竈數百貳拾老軒へ、前書の通り渡に相成、慥に受取申候、依之支配店々へ相渡し可申候、依之一同印形仕置候、以上

但老軒に付、錢七文つゝ

元治元年十一月七日

四谷塩町老丁目

家主 清次郎

(割印\*四拾九文\* 同 安右衛門

(割印\*廿八文\* 同 珍平

(割印\*九拾老文\* 同 丈兵衛

(割印\*五拾六文\* 同 伊太郎

(割印\*四拾貳文\* 家主 安平

(割印\*三拾五文\* 同 五郎兵衛

(割印\*拾四文\* 同 五兵衛

(割印\*七文\* 同 庄次郎

(割印\*四拾貳文\*

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

(割印\*四拾貳文\* 同 甚右衛門  
 (割印\*拾四文\* 同 安兵衛  
 (割印\*七拾文\* 同 勝右衛門  
 (割印\*廿老文\* 同 藤七  
 (割印\*七拾文\* 同 清吉  
 (割印\*六拾三文\* 同 庄吉  
 (割印\*八拾四文\* 同 庄三郎  
 (割印\*廿老文\* 同 勘六  
 (割印\*拾四文\* 同 兵藏  
 (割印\*拾四文\* 同 惣七  
 (割印\*四拾貳文\* 同 鉄五郎  
 (割印\*廿老文\* 同 儀左衛門

御行事中  
 高島孫右衛門殿

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目珍平店大工職与市奉申上候、当十月中栄次郎娘しゆんと申もの、遊女に遣し候砌、証人相立候義有之哉の旨  
 御尋に御座候

此段前書栄次郎義は、兼て知人に御座候処、当月上旬頃私方へ罷越、当時暮方にも差支候由申之、同人娘しゆんと申もの、千

住宿旅籠屋へ飯売女に質入致度由申之候間、懇意の間柄故、印形貸遣し候而已にて、場所へ不立寄候間、遊女屋并名前等相弁不申、尤同人悴栄吉里扶持として、金老両式分相預り置候へ共、里方鮫河橋谷町善吉方へは、里扶持として追々遣し候事駈と相弁不申候、然る処今般栄次郎義

御召捕に相成、御調の上、今日私被 召出、右始末御調受、驚奉恐入候、何卒以  
 御慈悲此段御聞濟奉願上候、  
 右御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元子年十月廿二日

四谷塩町老丁目珍平店

与市

右家主煩に付、代兼

五人組 徳兵衛

北臨時御廻り

御役人中様

高橋藤七郎様

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目家持質渡世小左衛門勢州住宅に付、店支配人房三郎煩に付、代治兵衛奉申上候、先月廿二日隠密御調の内、去る午

年六月以来紛失遅々耕出し、鉾幕水引式張御達御座候間、似寄の品と存、羅脊板幕老張持参、当月廿一日御窺申上候処、此廿四日被召出、御用筋等閑御差支の趣奉蒙御察斗、可奉申上様無御座、重々奉恐入候、何卒以御慈悲、御憐愍の御沙汰被成下置候様、奉願上候、向後右様心得違可仕候様不致候間、此段御聞濟奉願上候、以上

元治元子年十月廿六日

四谷塩町老丁目

家持小左衛門勢州住宅に付、

店支配人房三郎代

治兵衛

五人組 安右衛門

北定御廻り

御役人中様

右一件少々行違有之候に付、手先五人へ老人に付、金老分つゝ遣し、金老両老分にて御慈悲に相成申候

但三井伴次郎様御掛り、定御廻り御職に御座候

乍恐以書付奉願上候

一四谷塩町老丁目珍平店大工職与市奉申上候、元鮫河橋北町佐兵衛店栄次郎義は、兼て知人に御座候間、同人店受人に相立呉候様申

聞候間、懇意の間柄故受<sup>(人カ)</sup>に相立、前書佐兵衛店借受、差置候処、同人義武家方相勤居候年季女子引出し、売払候砌、私義心得違仕、栄次郎養女の由申聞候間、相違も有之間敷と存、得と出所も不相糺、証人に相立、売払候砌右不正金の内金老兩式分私方へ持参候に付、預り置き候処、今般栄次郎義御召捕に相成、右始末奉受御調、驚奉恐入候、何卒以

御慈悲此段 御聞濟奉願上候

右御尋に付、奉申上候通り聊相違無御座候、以上

子十年廿八日

四谷塩町老丁目珍平店

与市

右家主頼に付、兼

五人組 丈兵衛

北御廻り

御役人中様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目甚右衛門地借質渡世藤兵衛奉申上候、当三月中より亀太郎と申ものより、衣類質物に預り置候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段亀太郎義は、元鮫河橋八軒町銀藏店貞五郎倅にて、兼て知

人に御座候処、同人所持品の由申之、質物に預り呉候様申聞候に付、相違も有之間敷と存左の

子二月廿一日

一 二子木綿紺藍茶鼠堅縞袴羽織 ㊦

メ質代金貳分也

五月四日

一 木綿紺海老茶千筋綿入男半天(袴纏) ㊦

メ質代金老分老朱也

同九日

一 木綿紺茶鼠糸入堅縞男単物 ㊦

メ質代金貳分也

七月廿三日

一 木綿紺鼠(敵カ)懲塵男単物 ㊦

メ質代錢四百文

右品々度々持参、質物に預り呉候様申候間、証人無之、無判にて前書代金に質物に預り置候処、亀太郎義、今般当 御廻り先にて御召捕に相成、御調の上、今日私被召出、右品不正の由被仰渡驚奉恐入候、依之右品持参上納仕候、右御尋に付、奉申上候通、相違無御座候、以上

元治元子年十一月三日

同 五日

四谷塩町老丁目甚右衛門地借

藤兵衛

家主 甚右衛門

五人組 徳兵衛

火附盜賊御改

御役所様

御懸り 福田礼助様

召捕 小菅銀次郎様

乍恐以書付御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目月行事兵藏、麴町拾三丁目甚藏店吉兵衛右兩人奉申上候、私共の内行事兵藏、当月六日朝六半時頃、町内見廻り候節、往還に左の品捨有之候間、近辺承合候処、前書吉兵衛方にて、先月五日夜紛失致候品の由申聞候間、依之品持参、此段御訴奉申上候、尤近辺承合候内、御訴延引仕仕候段、奉恐入候、以上

元治元子年十一月 日(マ、)

四谷塩町老丁目行事

訴人 兵藏

五人組 惣七

名主 孫右衛門

麴町拾三丁目甚藏店

訴人 吉兵衛



濟仕、偏  
御威光と難有仕合に奉存候、為後証依之濟口証文奉差上候処、仍  
如件

元治元年十一月十七日

麴町拾壹丁目重蔵地借

願人 孫 七

家主 重 蔵

五人組 庄 助

名主与兵衛頼に付、代

繁 蔵

四谷御簞笥町庄兵衛店留五郎頼に付、代

相手 さ よ

家主 庄 兵衛

五人組 半 次郎

同所伊賀町家主直吉頼に付、代

願人 喜 兵衛

五人組 弥 七

同所塩町老丁目家主珍平代

相手 茂 吉

五人組 安 平

同所同町家主五郎兵衛頼に付、代

相手 徳 兵衛

五人組 安 平

名主孫右衛門代

忠 兵衛

御番所様

阿州御国産齋田塩元販  
油谷辰五郎

一 阿州様御国産齋田塩の義は、大守様思召立被為在、於御府内に御  
手捌被遊度、先年 御公儀様へ願書を以被 仰上候に付、追々御  
調に相成、去る廿四年以後(前之)天保十一子年七月廿日於 評定所御免  
許被仰蒙候略文左に

(蜂須賀名目)  
松平阿波守家来

家老職 立花内記

留守居役 集堂小平太

塩方奉行 里見左平

塩方手附 油谷辰五郎

右四人の者、於評定所に御月番筒井伊賀守殿何れも御奉行御立会  
にて、被仰渡趣、松平阿波守儀国産塩手捌致度旨、先般 公儀へ  
願出候に付、追々取調申付候処、全く申出候廉に相違無之条、依

之水野越前守殿へ伺の上、右国産の塩手捌方売事の儀、素人売等

勝手次第存意可為者也との御申渡にて、則手捌方御免許の御奉書

頂戴被為在候事、尚亦其後筒井伊賀守殿御白洲におゐて、下り塩

問屋并仲買の者不残御呼出しに相成、今般松平阿波守国産塩從

公儀、手捌素人売御免相成候、然る上は其方共一同差支の儀於有

之は、無遠慮可申出旨、御申渡に相成候、依て一同及 評儀候処

御公儀様より御免被 仰蒙候上は、不及是非、右の趣一同聊差支

の筋無之旨、申上候へは、則筒井伊賀守殿被為在御聞、然る上は、

書面を以請致へくと被仰渡候、依之北新堀町廻船下り塩問屋家持

松之助、小網町三丁目下り塩仲買問屋専右衛門地借吉右衛門紀州

住宅に付、店支配人仁兵衛、右兩人問屋仲買為惣代と、阿州様御

国産塩御手捌被遊候儀、私共一同差支の儀一切無之候趣、御請書

奉差上候事於今に連<sup>(綿カ)</sup>面たり

一阿州様御国産塩御手捌の儀は、天保十一年七月廿日御免許の節、

先代辰五郎取扱方可致旨、御墨附頂戴仕候事、右辰五郎死失後、

阿州侯へ休株願上候間、尚亦四ヶ年以前実子当辰五郎、再興被

仰付、万延元年九月廿日改て御墨附頂戴仕候事

一今般御国元より、御手船を以御積出しに相成候上は、塩請払所川

岸附家作出来仕候て、早速の御達に相成候事

一塩代金の儀は、荷物請取切にて勘定相立、御役所納候事、塩代金

上納の節は為口銭と、高金五分也引去り上納、塩代金上納は金高

七分通りは御役所納の事、塩代金高三分通りは船頭へ相渡可申候

事

但し売渡高金壹兩に付、為口銭銀三匁也

内銀三分は御冥加上納

内銀六分は廻船止宿料

引残て銀式匁壹分は全く手替

右の外売徳は臨氣<sup>(ア)</sup>応変取計可申候事、売捌方は問屋は不及申、仲

買にても、小売方にても、国々在々素人にて一切構不申売渡し

可申候事御規定に御座候事、当塩渡世名前左に

廻船下り塩問屋、下り塩仲買問屋

北新堀町 長島松之助 同町 徳島屋市郎兵衛

橋町三丁目 大坂屋平六郎 同町 喜多村富之助

南茅場町 浅井藤次郎 小網町三丁目 岡本屋又十郎

靈岸島塩町 渡辺熊次郎 小網町三丁目 広屋吉右衛門

同式丁目 日野屋定之助 北新堀町 松本保三郎

箱崎町老丁目 常陸屋徳兵衛 箱崎<sup>(ツ)</sup>式丁目 下総屋万助

右の者へ売渡候節も、現金取引の事、将亦国元より直請致候者名

前の内、松本・広屋此兩人は、当時直請致候事、其外は譬問屋た

り共、一切直受不相成候事、御国元より油谷方へ着船、凡壹ヶ年

分平均六拾艘程、但壹艘に付、千石目積以上、以下八千俵に見積

り、此俵数凡高四拾八万俵程也

右は取扱致候事には無之候へ共、書面而已認、後年の為にも相成

候間、乱筆にて認置もの也

但上総屋喜兵衛存込の義に御座候

御役人衆中様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家持質・両替渡世小左衛門勢州住宅に付、店預り人房三郎頼に付、代治兵衛奉申上候、去五月廿日以来御触の内、保字老分判老つ、当子六月廿四日夕七つ時頃、内藤新宿下町伊勢

乍恐以書付奉願上候

一四谷伝馬町式丁目家主市兵衛奉申上候、私共五人組持地借八兵衛義、不正の筋有之、当九月中御召捕に相成、御吟味中入牢被仰付、十月三日溜御預け相成候処、同人義十一月十二日病死致候趣

承知仕候間、何卒格別の以御慈悲、同人死骸私へ御引渡被成下置候様、偏奉願上候、以上

元治元年十二月四日  
四谷伝馬町式丁目  
家主 市兵衛  
五人組 清兵衛

候段奉恐入候、何卒以御慈悲、御聞濟被成下置候様奉願上候、以上

四谷塩町老丁目

御番所様

家持小左衛門勢州住宅に付

右書面御訴所へ差出候へは、掛りへ差出可申旨被仰渡候間、御

店預り人房三郎頼に付、代

掛り三好助右衛門様へ差上候へは、右八兵衛義は、茂八郎同腹

治兵衛

致し謀書・謀判致し、御召捕に相成候身分故、存命に候は、

五人組

徳兵衛

御仕置に可相成処、溜にて牢死致候は上の御慈悲に候間、八兵

南御廻り

衛妻子へ向後心得違無之様、可申聞旨被仰渡候

御掛り 高橋常五郎様

乍恐以書付奉申上候

四谷塩町老丁目清吉店古着渡世藤次郎奉申上候、当十一月中常吉と申ものより、帯買取候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段当十一月廿五日麴町拾老丁目栄次郎店、同渡世幸次郎妻ちかと申もの、前書常吉同道にて、私方へ罷越、常吉所持品の由之買取暮候様ちか申聞候に付、相違も有之間敷と存、左の

当十一月廿五日

一博多紺白浅黄堅縞男帯

老筋

メ代金老分と七百文

右品前書代金相渡買取申候、然る処、今般盜賊御召捕に相成、御調の上、今日私被 召出、右品不正の由被 仰渡、驚奉恐入候、

右

御尋に付、奉申上候通相違無御座候、以上

元治元年十二月三日

四谷塩町老丁目清吉店

藤次郎

右家主頼に付、代兼

五人組 徳兵衛

北御廻り

御役人衆中様

乍恐以書付奉申上候

一麴町拾老丁目栄次郎店紙屑買幸次郎奉申上候、当十一月中、常吉と申ものより被相頼、帯壳渡遣し候義有之哉の旨、御尋御座候

此段前書常吉義は、兼て知人に御座候処、当十一月廿五日私方へ罷越、同人所持品の由申之、買取呉候様申聞候へ共、其砌私義は他行仕り、妻ちか義常吉同道にて四谷塩町老丁目清吉店古着渡世藤次郎方へ持参、左の

着渡世藤次郎方へ持参、左の

一博多紺白浅黄堅縞男帯

老筋

メ代金老分と七百文

右品藤次郎へ前書の直段にて壳渡遣し、其砌礼物等受不申候、然る処、今般常吉義御召捕に相成、右品不正の由被仰渡、驚奉恐入候、右

恐入候、右

御尋に付、奉申上候通り相違無御座候、以上

十二月三日

四谷塩町老丁目栄次郎店

幸次郎

家主 栄次郎

北御廻り

御役人中様

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目甚右衛門地借粉名渡世惣吉奉申上候、当九月中より、万吉と申もの召仕候砌、温鈍粉式桶売取致候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段前書万吉義は、赤坂表伝馬町式丁目家主伊兵衛受人にて差置候処、<sup>(マ)</sup>当月中旬頃と覚日不覚、得意先へ為持遣候粉名式桶、代金先方より受取、遣込候に付、十一月十四日受人伊兵衛方へ万吉を引渡、引取一札取之、同人引負金の分追々可受取旨、及掛合、当月朔日前書の伊兵衛より引負金式分者受取申候処、今般同人義 御召捕に相成、今日私被 召出右始末奉受 御調、驚奉恐入候

右御尋に付、奉申上候通、相違無御座候、以上

元治元子年十二月七日

四谷塩町老丁目甚右衛門地借

惣 吉

家 主 甚右衛門

火附盜賊御改大久保筑後守様御組

湯川丈右衛門様

右は麻布市兵衛町番屋へ被召呼、右始末書差上候へ共、得意先にて致候事故、無余義金尅分差遣し、双方引合中より夫々出銀致し、当人御免に相成、受人伊兵衛へ引渡相成申候

乍恐以書付奉申上候

一四谷塩町老丁目家主勝右衛門奉申上候、当十一月中万吉と申もの死失仕候砌、罷越候義有之哉の旨、御尋に御座候

此段前書万吉義は、本所長崎町与兵衛店に罷在、兼て懇意に罷在候処、同人義は、当春中より長病にて打臥罷在候処、先月廿六日、本所緑町四丁目にて料理渡世仕候角屋と歎申、名前存不申仁より、届呉候文通に、万吉義は先月廿三日病死致候趣申越候へ共、其砌用向有之候間、当月朔日同人方へ罷越候処、万吉妻あい申聞候には、先月廿三日病死仕候間、同日夕刻取置仕、火葬に致置候間、<sup>\*捨\*</sup>骸骨の義は、国元へ差送度旨申聞候へ共、私も万吉とは、御当地にて懇意相成候故、国元の様子存不申候間、同人子供式人御当地に有之候間、当寺へ葬、仏事等為致候旨申聞、立帰り申候、然る処、今般右始末奉受御調、驚奉恐入候 右御尋に付、奉申上候通、聊相無違御座候、以上

元治元子年十二月八日

四谷塩町老丁目家主

勝右衛門

五人組 藤 七

北御廻り

御役人衆中様

大八木七兵衛様

御調有之候へは、向後引合無之旨、被 仰渡候

差上申濟口証文の事

四谷御算筒町寅吉煩に付、代同人妻きく奉申上候、左の相手名前のもの共、商用元手金に差支候に付、金子貸具候様達て相頼候に付、期日証文取之、貸遣候処、期日相立候ても済方不仕、是迄度々催促仕候へ共、品能申延、更に埒明不申、此度相談及掛合候へ共、勝手而已申之、乍恐難渋仕候間、無是非去亥九月廿六日御訴訟奉申上候へは、同十月五日双方可罷出旨の

御裏書頂戴相附、公事合当日相手方より返答書奉差上、御吟味相成、追々御日延奉願上、掛合の上、周藏・松五郎御願高金五両貳朱と銀三匁分五厘の処、当金四両貳朱受取、残金壹両と銀三匁分五厘不足勘弁仕、勇次郎・亀吉滞高、金貳両壹朱と銀壹匁三分五厘の処、当金壹両貳分貳朱受取、残金貳分三朱と銀壹匁三分五厘不足勘弁仕、善藏・伊兵衛御願高、金壹両貳分壹朱と銀七分五厘有之処、当金壹兩受取、残金貳分壹朱と銀七分五厘不足勘弁仕、浅吉・辰五郎御願高、金三兩と銀三匁の処、当金三兩受取、端銀は不足勘弁仕、勇吉・亀吉滞高、金壹兩と銀九分の処、当金壹兩受取、銀九分は不足勘弁仕、清の一滞高、金壹兩貳朱と壹匁五分の処、当金壹分受取、残金三分貳朱と銀壹匁五分不足勘弁仕、銀次郎・亀吉御願高、金壹兩

壹分貳朱と銀三匁の処、当金壹兩壹朱受取、残金壹分貳朱と銀三匁不足勘弁仕、梅五郎・栄助御願高、金五兩三分と銀四匁八分有之処、当金壹兩壹分受取、金壹兩貳分貳朱新規証文に仕、残金三朱と銀壹匁五厘不足勘弁仕、磯五郎・繁次郎滞高、金拾貳兩と銀六匁有之処、当金六兩貳分受取、金五兩貳分新規証文に仕、端銀は不足勘弁仕、亀吉・銀次郎御願高金五兩貳分貳朱と銀壹匁五分の処、当金三兩受取、残金貳兩壹分新規証文に仕、金貳朱と銀壹匁五分不足勘弁仕、新藏御願高、金四兩壹分貳朱と銀四分五厘の処、当金三兩三分受取、金貳兩貳分新証文に仕、残金貳朱と銀四分五厘不足勘弁仕、藤次郎御願高、金六兩壹分貳朱と銀貳匁八厘の処、当金三兩三分受取、残金貳兩貳分壹朱と銀貳匁八分五厘不足勘弁仕、留五郎義は、去亥年十月中欠落仕、尋被 仰付罷在候処、証人庄三郎より済口仕り候間、尋御免被成下置候様奉願上候、金五郎義も同様欠落仕、尋被 仰付罷在候処、掛合の上、追て当人見当次第可相掛筈、及示談候間、尋御免、是亦同様奉願上候、然る上は右出入以来、双方無申分熟談内済仕度奉存候間、何卒以御慈悲、御吟味御下け被成下置候様、奉願申候へは、願の通り被仰付、偏 御威光と難有仕合に奉存候、依之為後証、差上申濟口証文、仍如件

\*南御番所に候間、末文言左の通認め可申候事\*

元治元年十二月十日

四谷塩町壹丁目家主寅吉煩に付、代

願人 きく

五人組 徳右衛門

名主茂八郎死失に付、

組合名主孫右衛門代

徳兵衛

元鮫河橋南町六左衛門店

相手 周 蔵

外(マ) )

四谷塩町式丁目伊兵衛店金次郎欠落に付

右家主 伊兵衛

金蔵店留五郎欠落に付

相手 庄三郎

家主・五人組・名主連印

御番所様

乍恐以返答書奉申上候

一四谷塩町巷丁目珍平店与市煩に付、代同人妻さん奉申上候、本郷

金助町次兵衛店与七より外老人へ相掛貸金滞出入、当

御奉行所様へ御訴訟に相成、今日双方可罷出旨の

御裏書頂戴相附、拝見奉恐入候、一鉢右始末の義は、願人申立候

廉相違の義にて、願人与七と申もの義は、未聞不見のものに御座

候、素より夫与市義は、一向存不申、右金子の義は、市谷本村町

にて紙渡世仕居候由蔵妻うたと申もの義、兼て私とは懇意に罷在

候処、去る四ヶ年已前文久元酉年四月中、私方へ罷越申聞候は、

無尽懸置候処、落鬮に相成候間、金式両持参何方にても、貸付相

廻し呉候様申之候間、預り置外方へ貸遣し、同十二月中金七両持

参、同人申聞候は、何方へ成共貸遣し、利足受取、相廻し呉候様

申聞候間、両度に金九両預り置、外方へ貸遣し、同月晦日金三分

式朱と錢七貫文、前書うたへ相渡し、翌戌年正月晦日金式両相渡、

二月七日錢五貫文、同晦日三貫文、三月十日五貫文、五月四日金

式兩、同晦日金式分相渡、六月八日勘定相立に罷越候処、願人先

代由蔵大病故、妻うたへ相渡候金子式兩分式朱、翌九日右由蔵

義、病死致候間、同人見送り致候処、同月十三日うた義申聞候は、

墓参に罷越度候へ共、帯無之差支候間、買求度旨申之候に付、金

式兩相渡申候、其後同年八月晦日、青山宮様御門前にて平野と申

御侍、私方へ罷越申聞候は、是迄死失由蔵妻うたより、私へ預け

置廻し候金子の儀は、素々平野方より差出候金子の由申之、是迄

多分の利足等も受取候間、両度に金九両預け置候へ共、金式兩今

日相渡可申、左候へは帳面相消可申旨、被申聞候に付、手都合致

し、金式兩相渡、受取書平野より受取申候、其後去亥年六月三日、

死失由蔵一周忌に相当候へ共、当節柄甚難渋罷在候故、是迄永々

御世話相成候へ共、御礼等も不致、気の毒に候へ共、是迄御預け

申置候金子、利分多分受取、最早是切と思召(マ)蒸物等賦度候間、金

老兩貸呉候様申之候に付、相渡申候、尤素々懇意の間柄にて、預り置廻し遣候金子故、追々に返済致候へ共、うた并私義も無筆故、受取書不取置候処、今般訴状面へ去戌四月十五日より追々金七兩三分時貸有之杯と、案外成義申立候へ共、時貸致候覚曾て無之、証文金兩度に金九兩有之杯と、訴状面へ奉申上候へ共、全く預り金にて外方へ貸遣し、追々受取、前書奉申上候通り、九度に金九兩と錢式拾貫文相渡候間、預り金の義は帳消に相成候間、時借金七兩三分の義は、全く存不申候間、願人方へ罷越及掛合、最初引合致居候うた義も、存生中に候は、為引合呉候様申聞候処、同人義は、当六月中病死致し候由被申聞、何様及掛合候へ共、更に取敢不申、今般不得止事被及 御訴訟、甚難渋至極仕候間、何卒以

元治元子年十二月十五日

四谷塩町老丁目珍平店与市煩に付、代

き ん

御奉行所様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

一四谷塩町老丁目家主庄次郎奉申上候、私義は年来糴呉服渡世仕罷

在候処、当三月中御使番押田藤右衛門様御動向に付、呉服・反物類御入用の由、御家来上野栄左衛門殿を以、聊の内用達呉候様、達て被相頼候へ共、是迄御出入等も無之、初ての義に付、其段御断申上候処、御家来上野栄左衛門殿より、猶亦急場入用差支の趣、達て御頼に付、相違も有之間敷と存、同四月晦日限御皆済御約定仕り、品々御買上げに相成、代金式拾五兩三分耆朱と銀式分五厘御用達、内金受取、殘金拾式兩三分耆朱と銀式分五厘相滞候に付、数度及御掛合候へ共、品能御申延而已にて、一円埒明不申、乍恐難渋至極仕候間、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲、左の御家来上野栄左衛門殿被召出、売掛滞金御皆済相成候様、被 仰付被成下置度、偏に奉願上候、以上

元治元子年十一月十五日訴訟

四谷塩町老丁目家主

訴訟人 庄次郎

五人組 甚右衛門

御使番押田藤右衛門様御家来

相手 上野栄左衛門殿

一金廿五兩三分耆朱と銀式分五厘

内金拾三兩也、三度に受取

差引、金拾式兩三分耆朱と銀式分五厘 全滞

北 池田播磨守様

御奉行所様

四谷塩町耆丁目家主

御手形持 伊太郎

右の者、当月九日左の金子持参、小普請組山口近江守様御支配一色九左衛門様御座敷へは、御印紙請取に罷越、夫より同断岡田将監様御支配川村周之進様、同断安藤与十郎様明御支配浅井鉄次郎様、同断岡田将監様御支配小栗又左衛門様右三軒御屋敷へは、兵賦金取集に罷越、出銀請取立帰り候途中、不斗心付候処、持参の金子失念仕候間、驚前書四軒御屋敷へ立帰り承合候へ共、最早無之旨被申聞、左候へは、途中にて取落候哉も難計候間、依之今日御訴仕候間、此段御届申上候、以上

子十二月十七日

右町 名主 孫右衛門

一金百貳拾耆両三朱

内

貳分判

一分銀 取交

耆朱銀

右木綿紺財布へ入、白更紗風呂敷へ包有之

但自身不調法の義に付、月番北

池田播磨守様御番所へ御訴申上候、且書通の義見合申候

御非番

有馬出雲守様御番所へは御訴不申上候

御聞込の義は北臨時御廻り

高橋常五郎様御調に相成申候

手先 市谷谷町 弥 助殿

鯨河橋仲町 安兵衛殿

元飯田町 三 吉殿

乍恐以書付御訴奉申上候

一四谷塩町耆丁目家主御手形持伊太郎奉申上候、私義当月九日小普請組山口近江守様御支配一色九左衛門様御屋敷へは、御印紙受取に罷越、夫より同断岡田将監様御支配川村周之進様、同断安藤与十郎様明支配浅井鉄次郎様、同断岡田将監様御支配小栗又左衛門様右三軒御屋敷へは、兵賦金取集に罷越、出銀受取請取立帰り候途中にて、不斗心付候処、持参の金子失念仕候間、驚入前書四軒御屋敷へ立帰、承合候処、何れの御屋敷にも無之趣被申聞、左候へは、途中にて取落候哉も難計候間、依之此段御訴奉申上候、尤取調中御訴延引相成候段奉恐入候、以上

元治元年十二月十七日

四谷塩町耆丁目家主

訴人 伊太郎  
五人組 儀左衛門  
右名主 孫右衛門

一金百貳拾壹兩三朱也

内

貳分判  
壹分銀 取交

壹朱銀

ノ

紺木綿財布に入、更紗小風呂敷に包有之

御番所様

乍恐以書付御訴奉申上候

一 四谷塩町老丁目月行事伊太郎奉申上候、私共町内地先御堀内に、  
年齢五拾五六歳位に相見へ候町人躰の男、花色木綿股引、白足袋、  
草鞋を履、素肌にて相果罷在、落入候節脱候義にも御座候哉、木  
綿藍堅縞襦袢、同柳絞り三尺帯老筋、木綿紺茶堅縞財布壹つ、右  
側に浮有之候を、今朝五つ時頃見出し申候、然る処同人義は、同  
所伝馬町三丁目武兵衛店捨次郎従弟伊之助と申者の由に御座候、  
依之此段御訴奉申上候、何卒以 御慈悲、御檢使被下置候様奉願  
上候、以上

元治元子年十二月廿七日

四谷塩町老丁目

訴人 伊太郎  
五人組 安平  
同 儀左衛門  
名主 孫右衛門

御番所様

四谷塩町老丁目

月行事

伊太郎申口  
子三十三才

私共町内地先御堀内に、年齢五拾五六才位に相見え候町人躰の男、  
浮死骸有之候を、今朝五つ時頃見出し候に付、其段御訴申上候へは、  
御檢使被下置候、然る処、右は同所伝馬町三丁目武兵衛店捨次郎  
従弟にて伊之助と申五拾六才に相成候由にて、尋参り候義に御座候

同所伝馬町三丁目武兵衛店

捨次郎申口

子四十七才

私従弟伊之助義、変死仕候に付、御尋に御座候、同人義は、武州多  
摩郡中野村百姓武右衛門倅にて、同人義は先年相果、武右衛門跡は  
伊之助弟鉄五郎相統罷在り、伊之助義は三拾ヶ年已前天保七未年中

より、御当地へ罷出、所々御武家方足輕奉公致居候処、昨廿六日夜  
罷越致酒食、立帰申候、然る処、今昼九つ時頃、前書御堀内に、男  
の浮死骸有之候趣、及承合候間、罷越見候へは、同人死骸に相違無  
御座候、右は全酩酊の上過落入相果候義と奉存候、尚死骸御改の節、  
得と御見せ被成候へは、自分と落入相果候様子に相見え、死骸に付  
怪敷義相見へ不申、且死骸片付遣申度奉願候、  
尤国元へは早々飛脚を以可申遣候

伊之助死骸改

歳五拾六

右見分仕候処、身の内疵無之、水腫等も無御座、素肌にて木綿股引、  
同白足袋・草鞋を履居、側に木綿布子・同襦袢着つ、同三尺帯老筋、  
同財布着つ有之、落入候砌脱候義にも御座候哉、睨と相分不申候、  
右の通り身寄の者、町役人為立合、死骸相改申口承り候、以上

元治元年十二月廿七日

四谷塩町老丁目家主伊太郎

五人組 安 平

同 儀左衛門

同所伝馬町三丁目右捨次郎

家主 武兵衛

五人組 吉兵衛

名主 孫右衛門

御番所

検使

間楽弥右衛門  
植木栄左衛門

水死検使

御届

植木栄左衛門  
間楽弥右衛門

四谷塩町老丁目月行事伊太郎訴、町内地先御堀内に、年齢五十余に  
相見え候町人鉢の男、浮死骸有之候を、今朝五つ時頃見出候旨、訴  
出候間、私共検使罷越取調候内、四谷伝馬町三丁目武兵衛店捨次郎  
従弟の続を以、武州多摩郡中野村百姓武右衛門悴にて、伊之助と申  
五拾六才に相成候者、三拾ヶ年已前天保六未年中御当地へ罷出、兩  
親は先年相果、武家方奉公致居候処、昨夜五半時頃、捨次郎方へ罷  
越、酒食致し、立帰申候、然る処、今昼九つ時頃前書御堀内に、浮  
死骸有之由及承候間、早速罷越見候へは、同人に相違無御座候、全  
怪我にて落入相果候義にも可有之哉の旨申之候に付、死骸見分仕候  
処、素肌にて衣類は側に脱有之、身の内疵無御座、水腫等も無之死  
骸に付、疑敷義相見え不申、依之一件口書取調 播磨守殿 御番所  
へ差出申候、此段申上候、以上

子十二月廿七日

植木栄左衛門

子十二月廿七日

検使 間楽弥右衛門

翌廿八日播磨守様 御番所にて、死骸の義は前書捨次郎へ取片付被

仰付候、依之此記置もの也

(裏表紙)

四谷塩町老丁目  
自身番屋  
徳兵衛